

1 学校教育目標	
1 綱領 自主自律【進取の気象を涵養する】 質実剛健【好学の気風を養成する】 師弟同行【敬愛の美風を育成する】 2 教育方針 「くまもとの教職員像」、「県立中学校・高等学校における教育指導の重点」、「人教育取組の方向」、「特別支援教育取組の方向」、「学校安全・安心推進課取組の方向」「体育保健課取組の方向」、「社会教育課取組の方向」及び本校の綱領等に則り、生徒一人一人の個性の伸長を図りながら、徳・知・体の調和のとれた生徒を育成する。 3 教育スローガン 探究する生徒の育成 ～ 「表面的な問い」から「深い問い」へ ～ 4 教育理念 (1) 基本的生活習慣の確立、規範意識や豊かな人間性の育成【徳育】 (2) 基礎学力の定着、学習意欲の向上、国際性を高め探究する力の育成【知育】 (3) 特別活動や部活動の活性化をととした健やかな心身の育成【体育】 (4) 進路希望の実現、望ましい勤労観・職業観の育成【進路希望の実現、自己実現】 (5) 保護者や地域社会、大学等の関係機関との連携・協働【開かれた学校】 (6) 業務改善と働き方改革の実現、ワークライフバランスの達成 【信頼される教職員の育成】	
2 本年度の重点目標	
1 主体的・対話的で深い学びの視点からの新しい学びのスタイルによる学力向上・進路実現 (1) 学びの質を高めるための、OJT等による授業方法の工夫・改善 (2) 年間の指導と評価の計画や観点別学習状況評価、成績評価規定の検証 (3) 生徒発表会や各種検定、各種大会等の積極的・戦略的な利活用による、個々の生徒への的確な支援 (4) 外部講師による講演会や企業見学、実習等による望ましい勤労観・職業観の育成 2 教職員が生徒一人一人に寄り添い支援することによる自主自律の精神の育成 (1) 相手を尊重する関係づくりに根ざした人権意識、規範意識の醸成 (2) 教職員が情報を共有し、一丸となって取り組む個々の生徒に対する心の支援 (3) 危機管理(交通マナーやヘルメット着用、ネットトラブル、防犯、自然災害等)に対する意識の醸成と危機回避能力の育成 (4) 特別活動や部活動の活性化による表現の場の保障と相互尊重の意識の醸成 3 本校ならではの教育活動や関係機関との連携・協働によるイノベーターやグローバルリーダーの育成 (1) SSH等を活用した大学等との連携・協働による指導方法の充実・深化 (2) 留学生との研修や台湾修学旅行等、これまで培ってきた本校ならではの教育資源の有効活用 (3) 保護者や地域社会、同窓会に本校の取組について理解を得ることによる外部環境の充実 (4) 戦略的な広報活動や探究活動の取組推進による意欲的な生徒の確保 4 「働き方改革」を念頭に置いた業務改善及び、外部専門家の活用、学校行事の精選、職場環境の向上	

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	本校の教育目標を理解している。	・カリキュラム・マネジメントの実践	・SSH事業を軸足に据えた教育活動を推進し、各取組のブラッシュアップを図る。文科省からの中間評価で一定以上の高評価を得る。	・高大連携、小高連携等、新たな外部機関との連携に取り組む。課題研究の質的向上を図り、外部発表会等で成果を残す生徒を育成する。 ・新聞や各種研修等において知り得た有効な情報は、止めずに積極的に担当部署との共有を図る。	A	○学校間交流では、山鹿小学校での水泳指導、かもと稲田支援学校との交流活動に加え、米野岳中学校生徒会との合同研修を新たに実施することができた。 ○スポーツ健康科学コースでは、年間を通した大学との連携事業を実施した。 ○課題研究では、2年生が1名日本化学会九州フォーラムで奨励賞を受賞した。 ○生徒の対外的なコンテスト、行事等への参加者も前年度から増加している。
			・教職員の探究型クロスカリキュラム実施率100%を達成する。	・職員研修等を通じて教職員の意識高揚を図り、教職員が気軽にクロスカリキュラム等に取り組めるような雰囲気構築する。		○年度当初から研究開発部が職員研修を実施し、非常勤講師を除くすべての教員がクロス授業の実施した。 ●SSH第Ⅱ期申請に向け、今後は内容の充実を図っていく必要がある。
			・ICTの新たな活用に1つ以上取り組む。	・情報活用推進リーダー会で研修等を企画する。 ・校内研究を通して、デジタル採点を浸透させる。 ・更なる働き方改革に着手し、教職員が外部研修等に参加できる時間を確保する。		○5月にデジタル採点に関する職員研修を実施し、各教科で導入し採点業務の軽減につながった。 ○働き方改革の研修に教頭が参加し衛生委員会にて復講した。
	学校運営協議会（総合型）が機能している。	・年3回の協議会で、委員からの意見の聴取	・本年度の重点取組を提示し、協議の柱を明確にする。	・生徒の課題研究発表や授業見学等を協議会の中で計画する。 ・協議会で使用する資料は事前に委員に郵送する。	B	○3回の学校運営協議会において、生徒の研究発表や授業参観をそれぞれ実施した。 ○各委員に事前に資料を配付し、協議内容の深化を図った。

			・女性委員の割合を増加する。	・多方面から委員を選出し客観的な評価をいただく。		○昨年同様３名（３０％）の女性委員の割合であった。
	組織体としての一体感が醸成されている。	・職員の連携・情報共有、協力体制の整備、管理職への報告・連絡・相談の徹底	・運営委員会の議題等は部会等を通じて確実に全職員で共有し、課題解決に向け、各部・各係の連携強化を図る。	・各部署で得た情報は個人情報に配慮しながら積極的に発信し、共通理解を図る。 ・組織的な動きの中で、各部を越えた協働作業を推奨し、支援する。 ・個々の職員のアイデアや積極的な取組を推奨し、支援する。	B	○運営委員会の内容は、各部会等を通じて主任・主事が確実に復講し、全職員で共通理解を図った。 ○職員用の休憩室を整備し、職員が働きやすい環境整備をすすめている。
	積極的に業務改善を図り、職員の働き方改革に取り組んでいる。	・一歩踏み込んだ業務改革の推進	・校務全般を見直し、スクラップアンドビルドに学校全体で取り組む。	・各部で企画する行事については、費用対効果を検証する等、積極的に見直しを図る。	B	○各部ともに、企画を実施するにあたり、前年の反省を生かし改善に取り組んだ。
		・男性の育休取得推進	・男性の育休完全取得を達成する。	・職員研修を行い、対象以外の職員の理解を深める。 ・対象の職員に働きかける。	B	○育児休業を取得した男性職員はいなかったが、学校人事課作成の取得体験談を職員に周知した。 ○年休に頼らず、看護休暇等の取得推進を行い、子の看護休暇については、取得した８人中６人が男性職員であった。
		・職員の休暇取得率向上	・昨年度からの取組の徹底を図ると共に、新たな働き方改革につながる取組を提案し、職員の年休等の取得率向上を図る。	・月２日の定時退勤日の徹底を図る。 ・衛生委員会を通じて職員の心身の健康状態の把握に努め、年休取得１０日以上を全職員が達成するよう、積極的に管理職からの声掛けを行う。	B	○月１日のノー残業デーと各自が設定する月１日のノー残業デーを設定した。 ●職員の平均時間外勤務時間は昨年度と比較すると、月時間増加した。 ○１月までの平均年休取得日数は９日強であった。

学力向上	教育目標に沿った教育課程が編成され、教職員の共通理解により適切に運用されている。	・適切な教育課程の編成	・学習指導要領の趣旨を踏まえながら、生徒にとってより良い教育課程となるように教育課程の編成を行うとともに見直しを行う。	・県の教育課程研究協議会の復講を各教科で確실히行い、協議会の内容を踏まえながら教育課程検討委員会で検討するとともに、新課程の学習評価についても引き続き情報収集及び研究を行う。	B	○県の教育課程研究協議会の復講とともに、よりよくするように教育課程の検討も行っている。また、新課程の学習評価についても、引き続き情報収集や研究を進めていく。
		・教育課程の適切な運用	・行事等の早期把握に努め、適正な授業時間の確保に努める。	・全教科シラバスを作成し、生徒に提示する。 ・他の部署と連携した行事設定をする。	B	○全教科のシラバスをchromebookで生徒に提示することができた。 ●曜日調整や行事の設定については、現在も行っているが、今後も継続して行っていく。
			・定期考査問題や観点別学習評価の精度を高める。	・教科間で考査問題や評価についての検討時間が十分に確保できるよう、働き方改革を推進する。		○評価についての検討時間確保のために、各学期末の3日程度を45分授業にするよう計画し、実施した。
	適切な学習指導がなされている。	・分かりやすい授業の実施	・研究授業、授業公開、授業評価アンケートを他の部署と連携し計画・実施する。	・研究授業は、各教科で県内の指導教諭等を招き、年1回以上実施する。 ・授業評価アンケートを年2回実施する。	B	○各教科で研究授業を実施し、授業力向上に資することにつながった。 ○chromebookを利用して授業評価アンケートを2回実施し、個人での評価を確認するとともに担当者の業務の負担軽減につながることができた。
		・個に応じた適切な指導	・誰一人取り残さない指導の充実を図る。	・長期休業中の特別補習授業を計画し実施する。	B	○夏季と冬季休業中に特別補習授業を計画し実施することができた。該当生徒の取り組み方も概ね良好であった。
			・小テストを実施し、基礎学力の養成を図る。	・学習支援ツールを活用して国数英の小テストを実施し、主体的な進路選択に必要な基礎学力を養成する(1・2年)。		○朝の小テストを実施し、ペーパーよりも取り組み状況は良くなっている。 ●教員の操作習熟度に差がある。 ●実力向上につながる方法の改善は必須である。

			・手帳を効果的に活用し、家庭学習時間の確保に努める。	・手帳の記入を通して、自己の生活や学力を客観的に捉える力を育て、主体的・計画的に学習に取り組む姿勢を全学年で涵養する。		○生徒は自身の予定把握に活用している。 ●集会への持参など、声掛けをしなければなかなかできないのが現状。
			・生徒の進路希望に応じた個別指導を実施する。	・進路希望先や選抜方法に対応した個別指導の充実を図る。		○それぞれの進路に応じて、個別的に指導することができている。
		・授業改善の取組	・「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を行う。 (クロスカリキュラムの実践100%)	・教育課程関連表を作成する。 ・職員研修を実施する。 ・ICTの積極的活用を推進する。	A	○クロスカリキュラム100%を達成した。 ●課題研究につなげるクロスカリキュラムの計画につなげる必要がある。
キャリア教育 (進路指導)	キャリア教育の組織的推進が図られている。	・キャリアパスポートの実践	・PDCAサイクルの指導の実践を行う。	・キャリアパスポートを活用し、適宜自己の振り返りを行わせ、深い自己理解に基づいた主体的なキャリアプラン構築へつなげる。 ・出前講義を充実させる。	B	○出前授業や大学訪問、進路学習などを計画的に実施し、進路について学ぶ機会が多く提供できている。 ●参加の意欲に個人差がある。自身の進路を自分事として考えさせるまでに至っていない。
			・インターンシップを実施する(体験率80%以上達成)。	・HR等を通じて、積極的に情報を流す。		○2年生対象のインターンシップには23名が参加。看護体験には24名が参加した。10月・12月には半導体人材育成事業で計60名が熊本大学・崇城大学を訪問した。
	進路情報や個人的資料が収集・活用されている。	・進路決定の参考になる資料の提供	・大学入試の情報整理と共通テストに向けての対策を研究する。	・各大学の入試説明会等を活用し情報収集を行う。	B	○進路についての情報提供はできている。 ●生徒本人の意欲的な進路研究を喚起することができていない。
			・外部講師を招き、進路講話を実施する。	・小論文対策や受験指導について、外部講師による講話を計画・実施する。		●外部講師のレクチャーやオンライン教材を準備したものの、参加・利用状況には改善の余地がある。

		・進路検討会の充実	・模試結果の分析と定期的な進路情報の提供を行う。	・各学年の進路検討会を定期的に開催し、模擬試験結果の分析と情報共有を行う。 ・大学入試問題研究の研修を行い、教科の枠を越えて入試情報の共有を図る。	B	○進路検討会は、さまざまな側面から生徒の進路について考える充実したものになっている。 ●情報をいかに生徒や保護者と共有するかに課題がある（個別対応せざるを得ない）。
	進路相談が適切に行われている。	・個人面談の充実	・年間を通して、計画的に二者面談、三者面談を推進する。 ・1年生では、家庭訪問等を実施する。	・年間3回の面談週間を設定し、十分な面談時間を確保する。 ・早めに日程調整に取り組む。	A	○面談期間が設けられたことにより、生徒と話す時間は飛躍的に増えている。 ○2年生の巡回面談では、教科担当者と面談した生徒も多く、学習意欲を高める上で非常に効果があった。
生徒指導	学校全体で生徒指導に取り組む体制が整備されている。	・「鹿本高校生徒心得」（校則）を基盤とした基本的な生活習慣の確立	・本校三綱領をもとに、生徒が自ら考え行動する姿勢を身につけるための支援を行う。	・「鹿本高校生徒心得」（校則）のHP掲載や教室掲示等を行うことで周知徹底を図り、生徒が自ら考え、行動することを支援する。また、手帳に貼付させ、個々で確認できるようにする。	A	○概ね本校生徒心得を理解し、自ら考え行動することができている。 ●自分優先の生徒も若干いる状況である
			・「鹿本高校生徒心得」（校則）について、生徒の意見を積極的に聞き、適宜見直しを行う。	・アンケートや生徒会との意見交換の場を設定し、校則を時流に沿ったものにする。		○生徒会と意見交換を行い、現状の課題と校則の見直しを行うことができ、来年度からの心得を作成することができた。
	規範意識の向上に向けた指導を行っている。	・全職員の共通理解の下での、全校集会や学年集会における指導の徹底	・タイミングよく全校集会や学年集会を開き、指導を徹底する。	・挨拶、授業態度、掃除等の日常生活を通し、些細な部分も見逃さず、全職員が協力して指導をする。	A	○適宜学年集会等を実施し、生徒への連絡や指示、指導ができた。

	安全への意識向上に向けた指導を行っている。	・自転車二重ロック及びヘルメット着用の推進	・自転車通学生及び単車通学生の交通安全指導を徹底し、交通事故・交通違反件数を昨年度以下にする。	・ヘルメット着用を推奨し、集会や各教室で呼びかける。3学期より完全着用を目指す。 ・単車通学生には実技講習会を実施する。 ・通学別に集会を実施し、交通ルール遵守やマナーアップについて指導する。	A	○3学期からのヘルメット着用義務化はセレモニー等の効果もあり、100%を達成できている。 ○交通事故・交通違反については前回の報告から起こっていない。
	保護者や地域社会との連携が整っている。	・PTAとの連携	・学校行事や地域の行事等に積極的に参加することで、情報交換や連携を行う。	・山鹿市青少年育成健全大会や山鹿市主催のボランティア等に参加し、地域との関わりを密接にする。	A	○積極的な参加が行われている。さらに多くの生徒が参加できるよう進めたい。
		・近隣校との連携	・近隣校との情報交換を積極的に行う。 ・校種を越えた連携を行う。	・校則等について、他校と積極的に情報交換を行い、地域との一体感醸成につなげる。	A	○生徒会交流をはじめ、様々な場面で情報交換を行うことができた。
	生徒の自主的・自発的な活動がなされている。	・生徒会活動、各委員会の活性化	・生徒自身が動きやすい組織づくりを推進し、生徒会主催行事の充実を図る。	・各委員会を委員長主導の形で運営する。 ・企画運営等は生徒主導で行う。	B	○行事等は充実している。 ●生徒会役員や各種委員会の引継ぎ等について課題が残る。担当職員の負担が大きい状況である。
		・部活動の活性化	・メリハリのある活動に各部で取り組む。	・活動開始時間と活動終了時間の厳守に努める。	B	●下校時間は概ね守られているものの、下校中に近隣施設を利用し帰りが遅くなる生徒がいることがある。
人権教育の推進	人権意識の向上に向けた取組をすべての教育活動を通じて行われている。	・職員研修の実施	・教職員の人権感覚の向上を図る。 ・自他を大切に尊重できる生徒を育成する。	・生徒理解研修を年2回実施する。 ・SCによる職員研修を実施する。 ・研修の成果を生かし、個に配慮した指導を行う。	A	○生徒理解研修を4月と10月の2度実施し、個別の生徒についての状況や留意点を共有した。 ○SCによる研修は生徒理解研修と併せて2回実施した。 1回目（4月）：緊急時対応・ストレス対処 2回目（11月）：職員向けメンタルヘルス研修

	豊かな人間関係づくりに向けた指導ができている。	・一人ひとりの生徒が尊重される環境づくり	・生徒の自主自律、自己決定能力、コミュニケーション能力を高める指導を行う。	・心のアンケート、心と体の振り返りシートを活用した実態把握と支援を行う。 ・ソーシャルスキルトレーニングをSCの助言を仰いで実施する。	A	○「心と体の振り返りシート」（6月）・「心のアンケート」（12月）や学期はじめの面談による実態把握・支援を進めた。 ○SSTは9月に学年に合わせた内容で実施した。
	命を大切にすることを育む指導に取り組んでいる。	・人間としての在り方・生き方の自覚の深まり	・生徒の自己肯定感を育成する。	・教育相談やカウンセリング体制を充実する。 ・様々なストレス対処やSOSの出し方に関する指導を推進する。	B	○カウンセリングの配置時間を追加していただき、2学期まで実施することができた。 ●継続した支援が必要な生徒が複数おり、更に追加をお願いしている。
			・人権教育LHRの充実を図る。	・人権教育LHRを各学年3回以上実施する。		○年3回の人権教育LHRを実施した。 ○人権教育講演会では、生徒の状況に合わせ情報モラル教育を取り入れ改善した。
いじめの防止等	インターネットや携帯によるいじめなどの防止に努めている。	・情報モラル教育の充実・徹底を図る。	・外部講師による情報モラル講演会を実施する。 ・生徒会による「いじめ根絶運動」を促進する。	・情報モラル教育の充実・徹底を図る。 ・各クラスの代議員を中心に、生徒の自発的な取組となるよう支援する。また、保護者との連携強化を図る。	B	○講演会だけではなく集会やHR等においても呼びかけを行った。
						○定期的に生徒会生徒が呼びかけている。継続していきたい。
	いじめを未然に防ぐ体制・意識が確立されている。	・いじめ問題検証委員会の活用及びネットいじめ等、早期対応推進事業の活用	・「いじめは必ずある」との前提に立ち、学年間での情報交換を密にし、常にアンテナを高くしていじめ等の未然防止に取り組む。	・スクールサインへの登録を奨励する。 ・あらゆる教育機会を通して、「相談することは正しい行為である」という認識を持たせる指導を行う。 ・学年内・学年間での密な情報交換を行い、未然防止に努める。	A	○心のアンケートやスクールサイン等での相談に対して職員間で連携し、速やかな対応ができている。

地域連携（コミュニティ・スクールなど）	学校防災体制の整備と防災教育を推進している。	・生徒、職員の防災意識の高揚	・生徒、職員の防災意識の高揚を図るための防災教育を推進する。	・避難訓練（避難経路確認、防消火訓練、シェイクアウト訓練）を実施する。 ・防災だよりを発行する。 ・地域の防災訓練へ参加する。 ・危機管理マニュアルの見直しを行う。 ・LHRでマイタイムラインを作成する。	B	○1月現在、すべての項目について計画通り実行できている。 ●これで完成ということはないので、よりよい計画を目指しさらなる改善に努めたい。
	総務部とPTA（保護者）との連携強化が図られている。	・総務部関連行事、PTA活動の活性化	・各学年、各部、PTA役員（保護者）と連携し、学校行事の円滑な運営に努める。 ・PTAが関わる業務について今一度見直す。残すべき行事・不必要な行事を精選する。	・PTAの総務委員会を中心として、連携を密に取りながら活動する。 ・PTAとの連携を大切にしながら、積極的に活動内容の精選を行う。	B	○保護者の方々の協力により、各行事で円滑な運営ができた。 ●PTA組織は大きな改革を行った。見直しは継続して徹底したい。
	奨学金等の支援活動が確実かつ適切に行われている。	・保護者・生徒への周知の徹底と適切な事務処理	・保護者、生徒へ奨学金の情報を提供し、生徒の就学支援を行う。 ・ミスのない事務処理を行う。	・日本学生支援機構の奨学金に関して、説明会を実施する。 ・奨学金の募集要項をPDFファイルにしすぐるで配信することにより周知徹底を図る。 ・複数の担当者でチェックする体制を構築する。	A	○各項目について非常にスムーズに実施することができた。 ○きちんとしたチェック体制が確立できた。
	地域の自然や文化財、伝統行事等の教育資源を活用している。地域団体（住民）との連携が活発で行われている。	・地域の伝統行事等への理解と参加	・理数探究において、地域との連携を促進する。	・市町村役場、小学校や中学校、地域事業所との連携を充実させる。	B	○やまが未来創造塾との連携を行った。 ●今後の連携の在り方の検討が必要である。

		・地域団体・地域住民との交流促進	・生徒のボランティア活動の積極的参加を推進する。	・ボランティアや交流事業等を生徒へ案内し、積極的参加を促す。	B	○積極的な参加ができている。 ●ボランティア等参加している生徒の頑張りをもっと発信できるようにしていきたい。
			・生徒の中高連携、小高連携、地域連携行事を推進する。	・One teamプロジェクト事業を通して、地域の県立高校間の連携を更に深める。		○One Teamプロジェクトは「古代米」と「菊池川流域」の2本のプロジェクトにかかわった ●One Team事業終了後の在り方を検討する必要がある。
保護者や地域の方々の学校の活動内容への理解が進んでいる。	・学校の将来を見据えた戦略的な情報発信		・年間を通して、情報発信のターゲットを明確にし、戦略的な広報活動に取り組む。	・職員のアイデアを積極的に生かし、総務部広報班と連携し、組織的な広報活動を展開する。	B	○HPの更新だけでなく、インスタグラムでの広告掲載や鹿校通地区での文化祭ポスターの掲示など情報発信を活性化した。 ○年間を通して、主幹教諭による中学校訪問を行い、学校の情報発信を行った。
			・学校HPの定期的な更新を行うとともに、閲覧する側の視点に立ったHPの改善に取り組む。	・総務部広報班がリードし、閲覧する側の視点に立ったHPの改善を図る。 ・全職員の協力を呼び掛け、HPを作成する。職員のHP更新のサポートを積極的に行う。		○見やすい形を目指して改革を実施してきた。非常に良い反応を頂いている。
			・マスコットキャラクター「しかモン」を効果的に活用する。	・学校行事等への登場機会を拡大する等、広告塔として積極的に活用する。		○継続して活用を広げている。
			・様々な広報活動に取り組む。	・学校広報誌「鹿本高校News」を月1回発行する。 ・PTA文化広報進路委員会を定期的に関き、PTA新聞「めいりん」を発行する。		○予定通り定期的な発行ができている。 ○保護者の方々のご協力を得ながら発行している。

			・教育相談体制やカウンセリングなどに関する周知を徹底する。	・入学時やPTA総会において、本校の教育相談体制やカウンセリングについて説明する。・SC通信の発行により啓発を行う。		○入学時・保護者会でSC制度を周知し、利用を呼びかけた。また、生徒の状況に応じて保護者にもカウンセリングの時間を設定した。 ○3月に中学校との情報交換（訪問）を予定。引継ぎ事項については次年度の生徒理解研修に生かす。
			・中学校や保護者に向けて公開授業を行う。	・PTA総会時に公開授業を行う。案内は可能な限り早めに出す。		・PTA総会時に行った公開授業には100名を超える保護者の参観があった。
			・3年間を見通した進路指導年間計画の改善と周知を図る。	・進路通信、進路のしおりを発行し、進路指導に活用する。 ・保護者集会を通じて、進路情報を提供する。		○進路関連の行事については、ほぼすべてHPに記事を掲載することができた。 ●3年間を見通した進路指導のビジョンがまとまっていない。
			・SSH事業、授業、教師や生徒を紙媒体及びウェブサイトで広報する。	・校内の授業やSSH事業、そして様々な優れた取組を取材し広報する。		○SSH通信31号～38号を発行した。 ○ウェブサイトも高頻度に更新した。
保健安全管理	安全点検や環境美化に関して積極的に業務改善を図り、職員の働き方改革に取り組んでいる。	・安全点検の実施と改善と点検方法の簡素化を図る。	・学期に1回、校内安全点検を明確にして100%実施する。	・点検率100%を達成する。業務軽減のためにフォームズでの回答とする。	A	○2学期も点検率100%を達成することができた。 3学期も2月に点検を実施する予定。100%を目指す。
		・美しい学校づくり	・UD化を意識した校内の美化活動を推進する。	・掲示物等の張り方等、校内の至るところに気を配り、美化活動に取り組む。	A	○新たな取り組みはできなかったが、次年度に向けて美化意識の向上に取り組んでいきたい。

			<ul style="list-style-type: none">・環境ISO宣言に基づいた取り組みを前年度比1パーセント削減を目標にする。	<ul style="list-style-type: none">・環境美化委員会を中心に、環境ISO宣言に基づいた取り組みを行う。【職員】印刷用のコピー用紙を令和5年度比1%削減する。【生徒】水道使用料を令和5年度比1%削減する。		○本年度4月1日から山鹿市において、28年ぶりに水道料金の増額改定が実施されたため料金の減額が叶わなかった。コピー用紙削減は年間を通して削減目標に届くことができた。次年度は更なる共有を図り各職員室で印刷時の両面使用や裏紙使用の促進とchromebookで配信することを優先する等有効活用していきたい。
健康教育の推進	<ul style="list-style-type: none">・健康課題をもとに生徒保健委員会活動の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none">・保健委員の自主的な活動と啓発活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none">・キャンペーン活動や文化祭の取組、保健だよりを定期的発行する。	A	○キャンペーン班は7月にチラシ作成、12月に保健所からの依頼をうけてレッドリボンツリー作成、設置の活動を行った。文化祭班はスマホと健康をテーマにステージ発表をおこなった。保健だよりは定期的に発行できしており、保健だよりコンクールにて優秀賞を受賞した。	
	<ul style="list-style-type: none">・学校保健委員会の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none">・学校保健委員会を開催する。	<ul style="list-style-type: none">・学校医、PTAと連携し3学期に開催する。		B	○2月に開催予定である。今年度も三師会、PTAの参加が見込まれており、有意義な会となるよう準備を進めている。
	<ul style="list-style-type: none">・講演会等を実施する。	<ul style="list-style-type: none">・保健体育科と連携し、計画的に健康教育、性教育を実施する。	<ul style="list-style-type: none">・性教育講演会、薬物乱用防止教室を実施する。応急手当研修会も実施する。		A	○各健康教育について、計画どおり実施することができた。薬物乱用防止教室については、昨年度まで、2年生限定で行っていたが、近年の生徒を取り巻く環境を考慮して、全学年を対象に実施。内容も、大麻とオーバードーズを取り入れてもらった。

教育環境整備	施設設備の安全・維持管理のための点検整備がなされている。	・安心して教育活動に取り組める環境づくり	・安全で整理整頓された敷地・校舎の維持管理に必要な対策を行う。	・根本的な施設設備の維持管理、改修等については、県の長寿命化プランや営繕工事計画に基づき、計画的に進めていく。 ・緊急対応事項や営繕工事計画に掲載されていない事項は、校内巡視や職員等からの要望を踏まえて随時把握し、学校全体で対応する。 ・生徒や教職員が安心・安全かつ快適に教育活動に専念できるよう、迅速かつ丁寧に対応できるよう心がける。	B	●県の長寿命化プランにおける本校の個別プランは示されず、進展がなかった。今後も早急なプラン提示を働きかけていく。 ○緊急対応事項や要改善項目には迅速な対応ができた。予算上、次年度以降へ持ち越された案件もあるので、早期実施に向けて取り組んでいく。 ○教育環境の改善に係る項目は、優先的な予算運用ができた。
			・安全で整理整頓された敷地 ・校舎の維持管理に必要な対策を行う。	・校内の不良箇所について、情報を収集し、事務部と連携し迅速に対応する。		○校内安全点検率100%を達成できた。また、校内の不良箇所についても早急に対応して頂いた。
図書館教育	メディアリテラシー能力（情報を評価・識別する能力）を育てる。	・読書習慣の定着	・年間貸出冊数生徒1人あたりの平均6冊	・掲示物や図書館だよりを工夫する。	B	○電子図書館を導入した。 ●実際の読書量の把握ができない。紙の本の平均は一人3.3冊（コミック貸出が激減）であった。
		・学習、探究、情報センターとしての図書館づくり	・図書館の有効活用を推進する。（年間150時間）	・理数探究やその他の授業の取組と連携し、図書館の活用頻度を高める。授業等で活用しやすい図書館にするため、レイアウト等の工夫を検討する。		○2学期末で114時間の活用があった。 ●テーブルと椅子が老朽化している。

4 学校関係者評価

○働き方改革に関して、生徒たちの探究活動の指導にかかる職員の負担が心配な面であるが、時差出勤の活用の推奨や男性職員の育児関係の休暇取得を進めているなど、柔軟に対応されていると評価している。

○ボランティア活動など、子ども同士の交流や体験入学等を通して、中学生や保護者に鹿本高校の教育活動の様子をより、アピールすることが更なる学校活性化につながっていくのではないかと。

○台湾への修学旅行、OneTeam事業での他校との連携、やまが未来創造塾との連携など、グローバルな活動から地域同士の交流など活性化してほしい。

○小学校との連携は、小学生にとって鹿本高校を将来的な目標になるよい機会と思うので、今後も続けて欲しい。

○学校評価アンケートにおいて、保護者の回答が高い値が出ており、保護者と高校のつながりの強さが感じられた。

○社会が変化していく中で、教職員もそれに対し対応してほしい。

○読書習慣の定着については、社会で必要とされる対人感受性の磨くため必要なことと思う。読書量の把握ができないという課題に対しては、工夫をお願いしたい。

○スクールミッション、スクールポリシーを体現する学校運営がなされていると感じる。全体的に自己評価が前年より低かったことは、教職員がそれぞれの場面で問題意識を持ち、取り組んでいるためだと理解した。

5 総合評価

1 本年度の学校教育目標

SSH指定4年目を迎え、前年度以上に職員の意識が向上し、協力体制が進んだ。先進校視察や各校の発表会に積極的に参加する職員も増えてきた。また、授業改革への取組も向上し、本校の柱の一つであるクロス授業の実施100%の目標が達成することができた。このような職員の取組が生徒にも伝わり、学校評価アンケートにおいて「授業が工夫されている」と答えた生徒が9割を超えた。また、生徒の外部大会への出場やコンテストへの応募総数は、本年度は延べ617件と昨年度の597件からさらに増え、高校生ビジネスグランプリや日本化学会九州支部フォーラムで表彰される生徒も現れ、質の向上を実感している。来年度は、SSH第Ⅱ期の申請を控えており、今年度の取組をブラッシュアップさせ、県北地域唯一のSSH校としての使命を果たしていく。

2 本年度の重点目標

SSH事業を中核に据えた教育活動の成果として、SSH第1期生となる3年生の学校推薦等を利用した国公立大学への合格者数や理系学部への進学者数の増加が挙げられる。小まめに生徒と面談を行いながら、個々の生徒に寄り添った教育を実践していることが、学校評価アンケート結果からもうかがえ、9割以上の生徒・保護者が「本校に入学して良かった」、「子どもを本校に入学させて良かった」と評価している。

職員の働き方改革については、年休取得日数の目標は達成、時差出勤の推進できたが、平均の時間外業務時間は前年度より増えており、次年度も継続して取り組んでいかなければならない。明確なゴールが見えるものではないが、生徒・保護者にも理解を求めながら、働きやすい職場づくりを進めていく。

3 自己評価総括表

学校運営協議会で各委員から出された意見等を踏まえ、今年度は大項目「生徒指導」の中の「部活動の活性化」を自己評価から引き揚げた。全体的に前年度より自己評価が下がった項目が増えたが、本校の現状に満足していない教職員の意見を反映したものであり、運営協議会委員の方からも、前向きにとらえていただいている。

「生徒指導」、「保健安全管理」等の項目では、十分な成果が得られたと感じている。一方「学力向上」、「キャリア教育」の項目では、更なる改善を図っていく必要を感じている。

6 次年度への課題・改善方策

今年度「探究する生徒の育成～『表面的な問い』から『深い問い』へ～」を教育スローガンとし、授業だけでなく校内外の活動に参加しながら、多様な人々との交流を通して、生徒の探究力を向上させることを目指してきた。3回の学校関係者評価委員会では、授業見学や生徒の成果発表を行い、各委員から生徒の様子を見ていただき、本校の現在や未来のことについて、親身になって、考えていただいている。生徒たちの変容も着実に見てとれ、学校改革が進んでいることを実感している。

来年度は、本校教育活動の柱であるSSH指定のⅠ期総括の年であり、Ⅱ期申請を行う年となる。これまでの5年間の教育活動が大きく評価される年であり、鹿本STEAM、山鹿サイエンスプログラム、探究型クロスカリキュラム等本校の取組を更に改善・充実させ、次の開発計画につなげていく。これを通して、魅力ある学校づくりを推進し、生徒募集にも繋げたい。特に、普通科とみらい創造科グローバル探究コースについては、次年度の入学定員確保に向け、これまでの取組を工夫し、活動を推進していく。定員割れの現状を、少子化の影響として甘んじることなく、本校の将来を見据えクラス増につなげたい。

また、教職員の働き方改革については、単なる時間外勤務時間の減少を目標とするのではなく、個々の職員の勤務状況を細かく見直し、職員自身も効率化を意識した業務遂行をすすめ、学校全体として実施していく。生徒の学びを止めることなく、風通しのよい職場づくりに向け生徒・保護者の十分な理解を得ながら進めていく。